

ホストファミリーとより良い関係のために・・・

皆さん元気に過ごしていますか？早いもので、皆さんの留学が決まってからもう半年が経ちました。なんと R2 も皆さんの出発前は来月号でいよいよ最後です。

さて、今月号の R2 は「ホストファミリーとより良い関係のために」です。色々な準備を進める中で、やっぱり気になるのはホームステイのことではないでしょうか？ ホストファミリーとの生活はロータリーでの交換留学の醍醐味の一つですが、手伝いはどうしたらいいのか、何に気をつければいいのか、食事は・・・などなど、疑問や質問は尽きないことの一つでもあると思います。また今月号の投稿のない派遣国については、バックナンバーもありますのでこちらも参考にしてみてください。今月は歌舞伎鑑賞会や鎌倉散策など、行事も盛りだくさんです。ローテックスはいつでも皆さんの質問を待っているのです、どんどん質問をして少しでも不安や疑問を解消していきましょう！

にしやまいっこう

西山一行【2002 年度 アメリカ派遣】

とにかく質問

ホストファミリーとよりコミュニケーションをとるために私が常に意識していたことです。この作戦の利点はたくさんあります。



- ① 質問をするのは自分自身のことを現地語で語るよりは簡単である。
- ② ホストファミリーとの交流が自然と生まれる。
- ③ 相手のことを聞くと、今度は同じ質問を自分にも投げかけてくれる。
- ④ そこから今度は自分自身のことを知ってもらえるきっかけにもなります。
- ⑤ そして、たとえ相手の言っていることがわけわからなくてもリスニングの練習になる。

自分からどんどん興味を示すと、その思いは返ってくるものです。恋愛よりも返球率はすこぶる良いと思います。せつかく縁があって一緒に暮らすのですから、お互いをより良くしりたいですね。慣れてきて聞くことがなくなったら、ホストファミリーの両親の馴れ初めなんかを聞くと非常に盛り上がるので、お勧めです！

頑張りすぎずにゆっくりと

私がどこの家庭に入っても実行していたのは積極的に家事をすることです。私にできることは何でもやりました。ある時、歳の近い弟に「どうしていつも君はそんなに手伝いをしたがるの？君はお客様(ゲスト)なのだからそんなことまでしなくてもいいのに。」と、言われました。その言葉を聞いた時はとてもショックでした。私は家族の一員になりたいくて、家事も積極的にやってきたけれど、結局私は彼らにとってお客さんだったのかなって。私は彼の言葉に「私はあなたたちのゲストではなく、家族になりたいの。だからいつも家族の一員としてできることを探して、それをしたいと思っているわ。それって家族だったらとても自然なことでしょ？」と返しました。



しかし、今、実際にホストファミリーも経験し、当時の自分の行動を思い出してみても思ったことは、当時の私はホストファミリーの一員になるということに一生懸命で、夕食が済んだらすぐに皿洗い、学校から帰ったらみんなの分の洗濯物を取り込んで、たたんで…と、それが家族にとっていいことなのだと信じ込み実行していました。その家庭に自分を合わせられていなかったなと反省しています。

皆さんは初めからあまり頑張りすぎないこと、あまり力まずにゆっくりとその家庭に合わせるように自然に入っていただければいいと思います。そして、時にはホストファミリーに甘えてください。一緒にテレビを見ているときに自然に寄りかかってみるとか、学校の宿題を手伝ってもらうとか、自分の悩みを相談してみるのもいいと思います。普段皆さんも家族にしているように接すればいいのです。

自分はホストファミリーのために何が出来るのだろうか？と考えれば、その家庭で自分に出来ることが見つかると思いますし、それが皆さんの行動に現れれば、自然に家族としてみてもらえますし、互いの中に家族としての固い絆も生まれてくるでしょう。

必要なことを話そう

『日本人の留学生は比較的、相手の文化に順応し、無難に暮らすことが得意だ』と、現地のロータリーの方がおっしゃっていましたが、そうは言っても、小さなことが大きな信頼のヒビにつながることは大いにありうることです。留学中のある日、ホストファミリーと大変仲が悪くなってしまうことがありました。私とホストファミリーとの間に何らかの誤解が生まれてしまったのです。言葉の壁がある生活で誤解を生む原因はやはり『必要なことをお互いに話さないこと』。簡単な単語を並べることでいいので、自分の言うべきことはきちんと伝えるようにしましょう。大事なことを伝えられるようになったら、その後どんどん楽しい話題にも発展していけるはずなので。



そして、残念なことにホストファミリーとケンカしてしまった場合は、まずは自分から謝ります。自分の育ってきた環境では理解しがたいことでも、それに逆らうことは、せっかく受け入れてくれた彼らに対する失礼になります。ただ、本当に理不尽で耐え難いことがある場合、ロータリークラブのカウンセラーや他のロータリアンの方に相談しましょう。そこがロータリーの留学のいい所なのでから。

そして、日常生活では家族の一員として、自分のことは自分でやり、家事などの手伝いは当たり前のようにします。もちろん寛大なホストファミリーであれば、適度に甘えながらですけどね。私は素敵なホストファミリーに恵まれましたが、このように自分から歩み寄ることによって、誤解を解き、よりいっそう深い絆を築くことが出来ました。みんなもかけがえのない素晴ら

しい関係を持てるように今からイメトレをしてみてくださいね！

たかはし なおこ
高橋 直子 【2004年度 カナダ派遣】



もしもホストファミリーだったら・・・

ホストファミリーとの関係で大切なことは、もしも自分だったら…の立場で考えてみることだと思います。たった一年の留学生生活を思いっきり楽しみたい！そう思えば思うほど、居候の身である私達がホストファミリーに求めてしまうことってとても多いと思います。〇〇ちゃんのホストファミリーは旅行に連れて行ってくれたのに、私のホストファミリーは忙しくてどこにも連れて行ってくれない、なんて言う文句はありがちですが、禁物なのです。ロータリーでのホストファミリーは皆さん完全なボランティアです。皆さんが留学に何かを求めるように、ホストファミリーの皆さんも皆さんを預かる中で、何かを体験できたらいいなと思っているはずですよ。何か特別なことではなくても、一日の中で絶対一緒に過ごす時間を作っておしゃべりをしたり、せっかく料理教室で料理を習ったことですよ、週末に料理を作って見せてあげるというのも楽しい家族サービスになると思います。預かってもらうのを当たり前だと考えず、時には感謝の気持ちで一緒に何かをするのが、ホストファミリーとうまく付き合うコツではないでしょうか？

ひらい たかし
平井 貴史 【2005年度 フランス派遣】

ドアを開いてコミュニケーションを

私は、ホストファミリーとのよりよい関係のために、自分の部屋のドアを開けたままにすることを心がけました。もしあなたが長いことドアを閉めたまま自分の部屋にいたら、家族はあなたがどうしているか気になるのではないのでしょうか。新しい家族に迎えられて間もない頃はなおさらでしょう。わざわざ声をかけて、閉まっているドアを特別な用もなく開ける人はいるでしょうが、決してやりやすい事ではないと思います。

そんなときドアが開いていたら、家族はあなたの様子を覗くことも、声をかけることも気軽にできるでしょう。これは大切なコミュニケーションです。気軽に声を掛けられる関係が、本当によい関係だとは思いませんか。私は、この些細なことがホストファミリーとの関係を築く上でもっとも重要だったと確信しています。

ドアは開けていれば入り口ですが、閉めていれば壁です。11歳のホスト弟はよく私の部屋を覗いたり、中に入ったりしてきました。子供ですが、それもドアが開いていることで私がいつでも受け入れるつもりであると彼が受け取ったからということもあると思います。人に自分を受け入れてもらうには、まず自分の心を開くのが一番だと思います。こちらがそうすれば、きっとあちらも応えてくれるでしょう。

それと、家族が帰ってきたら、なるべく顔を見に行きました。家族は必ず喜びます。あなたも立派な家族の一員です。清々しいです。

また、話題づくりについてはなんですが、リビングのテレビをつけたりもしました。ただ、1つ悔やまれることがパソコンを使いすぎたことです。メッセージなど、友人にフランス語を鍛えてもらいはしましたが、闇雲に使うことが多くて、家族との時間を少し犠牲にしました。

さて、ドアの話に戻ります。もちろん自分の部屋ですよ、見られたくないことはあるでしょうが、見られてまずいことはほとんど無いでしょう。支障が無ければ、みなさんも私のようにドアを開けたままにしてみたいはいかがでしょうか。きっと早く家族に受け入れられると思いますよ。



まずは何でもやってみよう

僕は派遣中に4つのホストファミリーにお世話になり、そしてその4家族とも、とても良い人達でした。とは残念ながらなりませんでした。特に、2つ目のホストとは折り合いが悪く、途中でロータリーに頼んでホストを変えてもらうほどの仲でした。ですが、派遣先では僕はホストファミリーやホストロータリーにお世話になっている身、あれこれ気に入らないことがあれば注文をつけて変えてもらえる立場には、当然ですがありません。

では、僕はどうやって第二ホストと生活を共にしたか？それは、ホストファミリーが僕に言った決まり事を出来るだけ守るようにしたことです。もちろん、最初は戸惑うことや腑に落ちないような事もありましたが僕はお世話になっている立場です。それに決まり事を守っていなければホストロータリーにいくら話を聞いてもらっても、約束事を守っていないのですからなかなか信用してもらえないですよ？だから、僕はホストファミリーが言った（付け加えた）決まり事はちゃんと守るようにしました。そしてどうしても馴染めなければ、それはロータリーやカウンセラーに話すようにしました。僕は第二ホストとはカウンセラーやホストロータリーと相談をして変えてもらいましたが、その時に「言われたことは否定せずに、まずはやってみる」ということを教わりました。

日本にいたらすぐに否定してやらなかったことを、派遣先では試してみる。一見なんでもないような事ですが、実は出来ていなかった事なんだと感じました。先入観や自己中心の考えに捕らわれず、まずは受け入れる。そのことがホストとの関係だけでなく、日々の生活の中でも大切なことなんだと、第二ホストファミリーから教わりました。

小ネタ特集

気をつけたいマナー&タブー

アメリカ

- ・お風呂の髪の毛を取る、スラッグを使わない、ベッドメイキングをする、人がくしゃみをしたら「bless you」と言う。
- ・人前でゲップをするのは良くない。まあ、普通しないと思うけど。

オーストラリア

- ・家によるとと思いますが、日本の様な感覚でティッシュや水などを使わないほうがいいのかも。
- ・人を名前で呼ぶように心がける。
- ・マナーは麺類はすすって食べない。
- ・タブーは日本人がよくする困ったときの笑い。
- ・あつちはなんで笑ってるの？と思うらしい。(私たちはあれだよー。とかちょっと・・・ってっただけで察知というか気持ちを感じ取る文化があるけど外国は YES か NO じゃないと通じない面が多い)

韓国

- ・目上の人に対してのマナーが厳しいです。年上の人に対するマナーはいろいろありますが、私は特に教えられたりはしなかったのを見て覚えたり、気になることがあれば聞いてみると良いです。
- ・日本と同じように敬語があります。年上であれば先生や家族に対しても敬語で話すのが一般的です。最初はできないと思いますが敬語がわかるようになってきたら、失敗しても良いので先生やホストファミリーに対して積極的に使ってみると良いです。
- ・バスや電車にも日本と同じように優先席が設けられています。車内がガラガラでも優先席に座ることはあまりよく見られないので気を付けてください。
- ・電車やバスに乗っているとたまに座っている人から「荷物持ちますよ」と声をかけられることがあります。特に大きい荷物を持っているときは声をかけられることがよくあると思います。これは親切で言ってくれているので怪しまなくても大丈夫です。お礼を言って持ってもらうか、嫌なら笑顔で断わってください。
- ・人とのスキンシップが日本よりも激しいです。まず到着すればホストファミリーから激しいスキンシップ、ボディタッチで歓迎されるでしょう。ロータリアン、学校の先生、知り合いのおじさんやおばさんなどいろんな人からボディタッチされると思いますが、決して下心があるわけではなく「愛情表現」なので拒絶しないでください。また友達同士でも手をつないだり、腕を組んだり、ハグをしたりすることが当たり前です。最初は違和感があると思いますがこれも「愛情表現」なので身をゆだねてください。

台湾

- ・基本的に日本と同じように生活していれば、なんともありません。でも、お礼と挨拶は絶対にするようにしたほうが良いと思います。

ブラジル

- ・大体日本と同じだった気がする。
- ・無口はよくないです。わからない、話せないにしても、とりあえずコミュニケーションをとるようにしましょう。なにも話さないでいると、関係がよくなることはあまり考えられません。

ロシア

- ・ロシア人は常識があるので公共でのマナーは日本のようにきちんとしています。また、ロシアではお年寄りを敬う傾向が強いので、バスや電車では自然に席を譲っていました。あと、ロシアに限らず、レディーファーストなので男の子は将来のことも考えて勉強しておいたらいいかも…?! 余談ですが、僕は食事中にティッシュで鼻をかんだら怒られました。

フランス

- ・指を立てるときは必ず手の甲を自分に向けて。
- ・あくびは手で隠しましょう。
- ・時折、ご飯をフォークの裏にのせて食べる人がいますがこれは駄目。
- ・パンは表をきちんと上に向けて置く。



カナダ

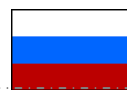
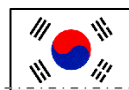
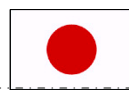
- ・他民族国家です。他国や人種差別に関しての配慮は日本に居るときよりずっと気をつけなければなりません。多少の他の宗教に関する知識や、歴史を学んでおくと気をつけることが出来るでしょう。
- ・鼻やお茶はすすらない。

R2 のバックナンバーのお知らせ

今回のテーマ「ホストファミリーとのよりよい関係のために…」は、2006年6月第11号のR2でも取り扱いました。ROTEX
Editor: Kaori Utagawa Layout: Naoko Takahashi Desk: Yuuki Kabayashi and Ikko Nishiyama

のホームページに掲載しています。今回執筆した ROTEX 以外のホストファミリーとの過ごし方などを見ることができるのでぜひご覧下さい。また、第 11 号では、留学準備に役立つサイト・本・お店なども紹介しています。以前発行したもので留学生活のヒントになるものがたくさんあると思うので、他の号もぜひ参考にしてみてください。

「詳しくは Web で」→<http://www.rotex2780.com>→「ROTEX 情報誌 RotexReports」



R²は当 2780 地区多くのローテックスの方々、
ガバナー事務所の協力を基に発行されています。
多大なる尽力に感謝いたします。

R²編集長： 宇多川薫 (2002 年度アメリカ合衆国)